



広い敷地の落ち葉をサクラソウ委員が堆肥に。生ごみ堆肥が落ち葉の分解・発酵を促進する



堆肥場のある学校は生きものの宝庫。「思いやりと生きる力が育ちます」と長沼幸男校長

ザリガニやカエルなど生きもの豊富な水田での稲作体験が繰り広げられ、11月にはお世話になった農家や父母も招いて収穫祭。クイズなどで体験を振り返り、堆肥育ちのご飯をかみしめます。

生ごみ堆肥はさらに、広い敷地からいっぱい出る落ち葉堆肥の分解・発酵促進に使われます。担当するのは5、6年生24人のサクラソウ委員。できた落ち葉堆肥は、畑やプランターでの野菜・花づくりに使われるほか、地元自治会の花や庭木の土づくりへも提供されます。

生ごみ堆肥で資源が循環する学校は、生物相もカブトムシ・クワガタ・カマキリ・カナヘビ・ヤモリ・タヌキ、などなど多彩です。栄小学校独自に平成6年度から続けている錦乃原サクラソウの保存・栽培、ハイケポタルの飼育もあわせて、小さないのちがいっぱい共存する学校。ここは、他人を、自分をたいせつにする心が育つ場です。



生ごみ堆肥で、自然の力を活かしたお米づくりを楽しむ

これなら楽しい やってみたい 生ごみ堆肥のつくり方・使い方

平成18年度

企画・発行 財団法人 日本土壌協会

会長理事 熊澤喜久雄

〒101 - 0051 東京都千代田区神田神保町1丁目58 パピロスビル6階

電話：03(3292)7281~3 FAX：03(3219)1646 HP：<http://japan-soil.net/>

編集・制作協力 (社)農山漁村文化協会 提携事業センター

取材編集協力 長野県高山村 同村農家女性の直売所グループ「かあちゃんの家」かわさき生ごみリサイクルの会代表 阿部貴紅子 調布・食の安全と生ごみリサイクルの会 埼玉県さいたま市立栄小学校 東京都港区立青南小学校 藤原俊六郎(神奈川県農業技術センター副所長)

写真撮影 倉持正実 / 木村信夫